JFE

技術の未来に、終わりはない

JFE GROUP TODAY 2016



挑戦。柔軟。誠実。

JFEグループは、
常に世界最高の技術をもって
社会に貢献します。



JFE GROUP
TODAY
2016

CONTENTS

企業理念・行動規範 1

グラビア 3

CEOメッセージ 17
JFE ホールディングス株式会社
代表取締役社長(CEO)
林田 英治

特集 明日のJFEを支える
人材力
～JFE世代の挑戦～ 21

JFE グループの概況 29
JFE スチール 31
JFE エンジニアリング 35
JFE 商事 39
ジャパン マリンユナイテッド 41

JFE グループの歩み 42
CSR活動 43
主要経営指標 45
企業情報 47
マネジメント体制 49

西日本製鉄所（福山地区）開設50周年 稼働。

西日本製鉄所は、世界最大級の大型高炉と広大な敷地面積を誇る
JFE スチールの基幹製鉄所です。
2015年2月、同製鉄所の福山地区が開設50周年を迎えました。
高度な技術と効率的な生産体制を構築し、世界最強の製鉄所を目指します。

一新。

設備投資で国内の製造基盤を強化

「国内製造基盤の強化」に向けて、
各製造拠点で製造設備の
リフレッシュ工事を進めています。
コークス炉更新など投資効果の
高い案件から前倒しで進め、
さらなる競争力強化を図っていきます。

〔写真〕
東日本製鉄所（千葉地区）
第6コークス炉A炉団のリフレッシュ工事。
40人の熟練煉瓦職人が160日間かけて、
手作業で15,000トンの煉瓦を
積み上げて炉を建設していきます。
本工事は、2016年内の完工を予定しています。

直伝。

受け継がれる「鉄づくりの技術」

団塊の世代の大量退職以降、
急速な世代交代が進む中、
「鉄づくりの技術」を次の世代に
着実に受け継ぐため、
多様な人材の採用や技能伝承に
重点を置いた育成など、
さまざまな取り組みを進めています。



調和。

暮らしの中に
最新鋭都市ごみ発電プラント

既設プラントを解体し、建て替えを行っていた練馬清掃工場が完成、
2015年12月に稼働を開始しました。
JFE エンジニアリングは景観に配慮したコンパクト設計と、
厳しい排ガス基準をクリアする高い技術力で、
住宅地との共存を実現しました。

共生。

低炭素社会を実現する都市型バイオマス発電所が完成

木質バイオマス燃料専用の
発電所としては日本最大級となる
発電所が川崎市扇町の
製油所跡地に完成しました。
JFE エンジニアリングの
バイオマス発電技術により、
木質ペレットとヤシ殻がクリーンな
再生可能エネルギー源となり、
49MWの電力に生まれ変わります。

（株）京浜バイオマスパワー



ナショナルスタッフが現地ビジネスを切り拓く 多彩。

経済成長に連動して、飛躍的に鉄鋼需要が伸長するベトナム市場。
その最前線に立つJFE 商事グループのナショナルスタッフは、JFE グループの鉄鋼製品販売に加え、
鉄スクラップをはじめとする原料供給など、あらゆるビジネスフィールドで日々活躍しています。
JFE 商事グループは、世界19カ国55カ所で展開するグローバルネットワーク、
そして各地で活躍する3,500名を超えるナショナルスタッフの力を活かして、現地ビジネスを切り拓いていきます。

先駆。

高効率の
大型省エネコンテナ船
“NYK BLUE JAY”

ジャパン マリンユナイテッド（JMU）呉事業所で建造した
14,000TEU型省エネコンテナ船シリーズの1番船、NYK BLUE JAY。
JFE スチールと共同開発した極厚高張力鋼「YP460」を採用するなどして、
コンテナ積載能力を極限まで高めることで、同クラスで業界一の輸送能力を実現しました。
また、JMU独自の省エネ装置を採用し、主機関には高効率の電子制御エンジンを搭載しており、
高い省エネルギー性能を発揮するとともに、フレキシブルな運航を実現しています。





激変する経営環境の中 さらなる企業価値向上を 図るために

JFE ホールディングス株式会社
代表取締役社長（CEO）
林田 英治

皆様には平素よりJFE グループの活動に対しまして、温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

鉄鋼事業を中核に、エンジニアリング、商社などの事業を展開する当社は、2002年の会社創設以来、幾多の事業再編を経て、企業としての持続的な成長を図ってまいりました。また、社会のお役に立てる企業グループを目指し、地球環境との共存、企業倫理の徹底を社員一人ひとりが使命と認識することで、全てのステークホルダーの皆様にとっての企業価値向上に努めています。

現在JFE グループでは、昨年春に策定した2015～2017年度における事業運営の基本指針「JFE グループ 第5次中期経営計画」に基づき、持続的な成長と企業価値向上を図っています。そのポイントは、当社の持つ「技術優位性」と「多様な人材力」、そして広い事業領域で培った「グループの総合力」を経営資源として、国内事業の収益基盤強化と海外事業の収益拡大を目指すというものです。しかしながら昨年夏以降、特に鉄鋼事業を取り巻く環境は、停滞する中国経済の影響を強く受け、従来以上に厳しさを増しています。各事業を取り巻く最近の状況と、その対応策についてご報告いたします。

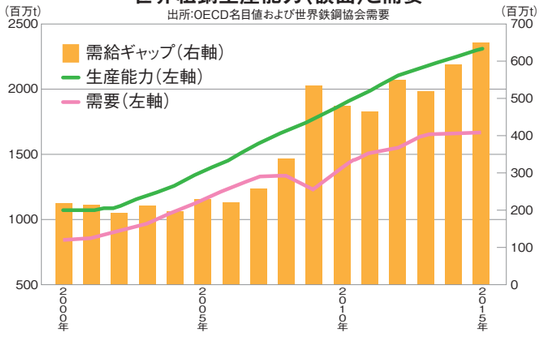
技術力、人材力、グループ総合力の強化で
着実な経営計画の推進を

国際的な市況悪化で回復が遅れる鉄鋼事業

世界の粗鋼生産は20世紀終盤までは年間7～8億トンのレンジで推移していましたが、21世紀に入ると中国など途上国の需要が急増し、世界の鉄鋼産業が高収益を謳歌する時期を迎えました。2008年のリーマンショックで鉄鋼需要は激減したものの、好調な中国経済に牽引され一時的な需要減にとどまりました。しかし、国際鉄鋼市場はその後、中国のわずかな需給変動により原材料価格が乱高下する不安定期に入りました。2014年、中国の国内鉄鋼需要の伸びが初めてマイナスに転じると、「供給力過剰」となり国際市況は大幅に悪化しました。原材料価格の下落で一定の利益は確保したものの、中国の国内需要がさらに減少した2015年以降、中国鉄鋼業は輸出にドライブを掛けています。その結果、鉄鋼製品の価格が一気に下落し、国際市況はここ十数年来で最悪の状況となりました。当社が得意とする高付加価値鉄鋼製品にとっても厳しい状況が続いています。

世界粗鋼生産能力(額面)と需要

出所:OECD名目値および世界鉄鋼協会需要



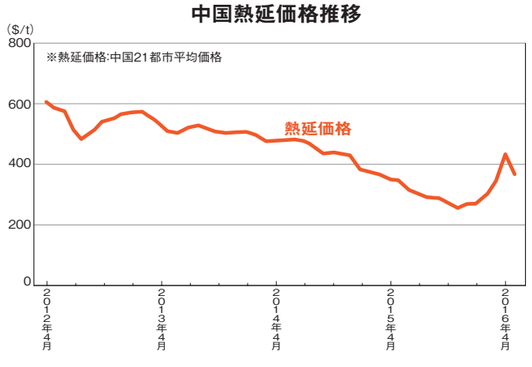
国内外の動向に対応するグループ各事業の近況

鉄鋼事業との関わりが大きい商社事業の収益も、同様に芳しくありません。中国政府は効率の悪い小規模な鉄鋼生産設備の廃棄促進を計画してきましたが、失業の引き金となるためなかなか進まないのが実情です。今年に入り、計画の推進をいっそう強化しているものの、急速な改善は望み薄で、本格的な需給回復まであと数年はかかる見込みです。従って、鉄鋼・商社事業ともに、現在の厳しい環境が今後もしばらく続くという前提に立ち、事業運営を行っていく必要があると考えています。

エンジニアリング事業については、将来の国内需要減少を見込んで、ここ数年海外で積極的に事業を展開してきました。受注活動の焦点を東南アジア中心に絞っていますが、ここでも中国経済の減速が影響し、海外での受注は中期計画を下回っています。しかし、国内の環境関連事業をはじめとする分野で、強い競争力に基づく受注活動を展開した結果、2015年度の受注金額は過去最高の5,094億円となり、中期計画を上回るスピードで成長しております。

持分法適用会社である造船事業のジャパン マリンユナイテッドは、バラ積み船・タンカーの発注が世界的に低迷している中、大型コンテナ船・ガス船・艦船など新たな船種を相次ぎ受注し、今後2年半分の建造量を確保しております。新規船種受注に伴う開発・設計などのコスト負担は小さくはないものの、昨年度・今年度とも黒字を確保しながら事業を進めております。

中国熱延価格推移



厳しい環境への対応と成長への具体策

中国の政策などにより、世界の鋼材市況は緩やかに回復するでしょう。しかし、世界経済の低迷が長引けばその回復スピードも鈍らざるを得ません。外部環境の好転に期待をしつつも、好転がみられない場合を想定した事業運営をしていく必要があります。JFEグループにとって厳しい状況はしばらく続くと考えられますが、まずは主力である鉄鋼事業の収益改善を図るべく、最善の努力をしていく所存です。

具体的には、価格競争に晒されやすい汎用品とは異なる高級鋼材の比率をいっそう高め収益を確保すること、生産効率のさらなる向上を通じてコストを削減すること、中長期的な商品力・コスト競争力を確保するために設備の更新・補修を行うこと、人材の若返りのための採用・育成を行うことです。経営環境は第5次中期経営計画の想定とは異なるものの、やるべきことは変わりません。利益目標の達成時期は少し後ろにずれるかもしれませんが、その達成に向けた行動はゆるぎなく進めてまいります。

個々の事業の収益改善に加え、資産圧縮などを通じたキャッシュフローの改善により投資を着実に進め、グループ全体の収益向上と財務改善を両立させてまいります。



コーポレートガバナンスを充実させる企業体制の整備

コーポレートガバナンス・コードなど、企業統治のためのさまざまな制度が導入されておりますが、JFE ホールディングスにおいてはこれらの導入に先駆け、社外役員の選任、ガバナンス・コンプライアンス強化のための社内体制の確立や研修制度の充実などの方策を取り入れてまいりました。昨年度は新たに社外役員が過半数を占める「指名委員会」「報酬委員会」を設置するなど、企業の透明性をいっそう高める努力を継続しております。

昨年から国内外において企業の不祥事が相次いでいます。私たちJFEグループでは、一人ひとりが社会人としての倫理観とプロフェッショナルとしての自覚を持つことで、今一度ビジネスの基本に立ち返り、コンプライアンスの徹底に努めてまいります。

皆様のご期待に応える事業運営のために

以上のように、事業を取り巻く環境は引き続き厳しいものと推察されますが、その中でステークホルダーの皆様方のご期待に少しでも近づくべく、JFE グループをリードしていくことがCEOとしての私に課せられた任務です。前向きに日々の業務に努めてまいりますので、引き続きご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

特集
SPECIAL

明日のJFEを支える

人材力

～JFE世代の挑戦～

鉄を中核に、幅広い事業を展開するJFE グループ。
その品質は、社員一人ひとりの力が支えている。
2002年のJFE グループ発足から約14年。
世代交代が進み、グループ発足後に入社した“JFE世代”が増える中、
若き社員たちはどのような活躍をしているのか。



伝統ある現場のリーダーとして、次世代に技能を伝えていく。

伝承。

若きリーダーが担う技能伝承

JFE スチール
東日本製鉄所（千葉地区）
設備部　冷延設備室　リーダー
布留川 卓也

冷間圧延の工程で生産の安定を守る

JFE スチール東日本製鉄所（千葉地区）。主要製品は、缶詰やシンクに使用される薄板。約3mmの鋼を10分の1の薄さに加工する、冷間圧延という技術でつくられている。この過程を担う冷間圧延装置（2TCM）の保全を担当する29歳のリーダー・布留川卓也は語る。

「冷間圧延はわずか0.1mmの誤差が品質を左右します。良質な製品を安定して生産し続けるため、装置を点検・補修するのが私の役割です」

2TCMの保全は3人一組のグループで行われる。リーダーを務める布留川は、2人の部下が記入した点検書類を綿密に確認していく。部下の1人は19歳の新入社員だ。

「2TCMは冷間圧延で世界最速の装置です。回転が速い分、消耗しやすいので、頻繁に補修する必要があります。機械の不具合は工場全ての工程をストップさせることにつながるため、迅速に原因を解明して処置しなければなりません」

不具合原因の誤認が操業停止につながり工場の運営に大きく影響することもあるため、保全リーダーに課せられる責任は大きい。

「原因解明の際は、まず過去の補修が記録されている機械保全履歴という書類を調べます。前例のない不具合は、部下や上司と相談してベストな解決策を導き出します。難しい問題ほど、解決できたときの喜びも大きいですね」

技術を伝えるだけではなく新たな方法を残していく

布留川がリーダーに就任したのは入社8年目のとき。ほかの製造業と同様、急速に世代交代が進む製鉄所では、積極的に若手を起用している。

「後輩に対して責任を負うのは初めてです。より良い工場にするためにも、知識を自分の中だけにとどめてはなりません。自分が覚えるのに5年かかったことを、後輩には1年で覚えてもらえるように努めています」

若くして現場を指揮する布留川も、かつては先輩から技能を教わる立場の人間だった。身をもって対処した不具合の数々が、現在の糧になっている。

「新人の頃、トラブルが生じるとすぐに先輩が駆けつけてくれ、『このトラブルはもう解決できる』と安心したのを覚えています。先輩はトラブル対処後に機械の図面を細かく見せて原因を説明してくれました。問題の全体像を教えることで、自分の頭で考える力をつけてくれたのだと思います」



技術者が経験を積み上げても、機械は年月とともに新たな不具合を起こしてしまう。どんなときでも最良の解決策を見いだす力こそ、現場では重要なのだと布留川は語る。

「2TCMは稼働してから50年以上になりますが、過去の機械保全履歴は全て保存されています。これだけ伝統ある現場を任されている以上、自分も履歴に新たなノウハウを刻んでいかなければならない。さらに先輩として、より良い履歴をつくれる人間を育て上げていく。そうしてJFE全体の技術が積み上がっていくと考えると、大きなやりがいを感じます」。

PROFILE
ふるかわ・たくや
JFE スチール 東日本製鉄所（千葉地区）設備部　冷延設備室　リーダー。2007年入社後、設備部冷延設備室に配属。圧延設備の保全を担当する。2015年より現職。

将来JFEの中核を担う技術者を育てるために

JFE スチール
東日本製鉄所（千葉地区）
設備部　冷延設備室　統括
吉田 輝夫



私たち統括の仕事は、それぞれの役職に適切な人員を配置することです。リーダーに求められるのは総合力。複数の人と機械を動かし、安全、品質、予算、納期に目を向けなければならない現場のリーダーは、視野の狭い人間では務まりません。リーダーの価値は、本人がどう動くかではなく、現場がどう動くかで決まります。全体を見て適切な判断を下す布留川のような人材が、今後工場を支えていくでしょう。

私たちベテランは若手に対し、将来JFEの中核として活躍することを見据えて指導をしています。そのためには、「どうする」という短期的な解決だけでなく、「なぜそうするか」という因果関係を理解してもらわなければなりません。時間をかけて議論を重ね、共に作業をすることで、現場への理解が深まるようにしています。そうして育った人材のアイデアは、新たな基準として永続的に活用できるものです。次の世代へと受け継がれ、JFEのかけがえのない財産となるでしょう。

OBを含むベテラン技能者が専任講師を務め、職場ごとに指導に当たる「テクニカル エキスパート制度」などの試みも始まりました。若手が普段遭遇しないトラブルへの対処法を学ぶなど、新たな効果が期待できます。今後ますます技能伝承が活発になり、たくましい人材が育っていくために支援していきたいです。



開拓。



PROFILE
Pham Truc Quynh
ベトナムJFE 商事ハノイ支店営業担当。日本への短期留学、日系企業で通訳を経て、2011年入社。営業アシスタントとして事務職で勤務した後、営業担当。主に鉄スクラップ、合金鉄を担当。

スピーディーに商品を届け お客様との信頼を築いていく

JFE グループでは海外での現地ビジネスを推進するために、現地スタッフ（ナショナルスタッフ）の活用を進めている。ベトナムJFE 商事ハノイ支店には、4人のナショナルスタッフが勤務。それぞれが営業や事務で活躍する。その一人、ファム チュック クィンは、原材料の営業担当だ。

「主な商材は日本産の鉄スクラップ。ベトナムの製鋼メーカーに販売しています。ビルやマンションの建設が進むベトナムでは、鉄スクラップの需要が高まっているのです」

既存の建築物の解体などによって発生する鉄スクラップは鉄鋼蓄積量の高い先進国が主な産出国であり、ベトナムが輸入する鉄スクラップの多くは日本産だ。

「バイヤーとサプライヤーの事情をヒアリングし、双方にとってベストな提案をするのが私の仕事です。鉄スクラップは供給量が不安定で、価格は日々大きく変動します。取引では常に最新の情報が求められるため、日本全国の拠点とグループチャットで連絡し合い、それを15分ごとにチェック。バイヤーにとって最適な原料を、最適な価格で届けなければなりません。お客様に満足され、それを日本のスタッフに伝えたときの達成感が、私のやりがいです」

流暢に日本語で話すクィン。2カ国の事情や文化・言語に精通するナショナルスタッフの強みが、新たなビジネス領域を切り拓く。

世界でビジネスを拡大する グローバル人材

ベトナムJFE 商事ハノイ支店
営業担当
ファム チュック クィン

原材料の力を 自国の発展に役立てる

もともと日系のIT企業で通訳の仕事をしていた彼女は、より幅広い領域に挑戦しようとベトナムJFE 商事に入社した。

「事務職として入ったのですが、コミュニケーションが好きだった私を支店長が営業職に抜擢。スタッフの皆さんに市況や各指標の論理的な分析を教わって成長できました。メンバー同士が助け合う、とても働きやすい職場です」

ハノイ支店のナショナルスタッフは関係会社含め全員が女性。互いに仕事の垣根を越えてサポートし、家事や子育ても協力し合う。ナショナルスタッフである彼女の目には、外資企業であるJFE 商事はどのように映っているのか。

「ベトナムの鉄スクラップはアフリカや南米産が中心でした。ベトナムJFE 商事は、良質な日本製品を仕入れるパイオニアです。街中に新設される橋やビルを見ていると、自分の仕入れた原料が自国に貢献していると誇りを感じます。マーケットはまだまだ広がっています。もっと開拓するつもりです」



挑戦心の強いクィンには、将来成し遂げたいことがある。

「現在は原材料を仕入れる仕事ですが、いつかベトナムに技術力を売り込む仕事をしたいです。発展途上にあるベトナムの製鋼メーカーは、建材などが主要販売製品です。長年培われたJFEの技術力を提供すれば、さらに高品質・高機能な製品を生産できるようになります。そうしてベトナムの産業がもっと広がるためにも、両国の関係者と親しい関係を築きながら、経験を積み重ねていきたいです」。

国際競争を 勝ち抜くために、 ナショナルスタッフは 欠かせない。

ベトナムJFE 商事ハノイ支店
支店長（当時）
住吉　功



拡大するアジア市場では、ナショナルスタッフの力が不可欠です。現地企業との競争においては、現地の人にしかできないコミュニケーションが強みになります。打ち合わせでは、文化や言語を理解して初めて相手の本音を引き出せます。議事録や契約書では伝わらない、相手の表情や会話に表れる微妙な心情をくみ取った上で、日系企業の情報力や品質でさらに差をつけ、受注につなげることができるのです。

一方で、ナショナルスタッフには日本の商習慣もきちんと理解してもらわなければなりません。ベトナムに比べ日本では、長期的にじっくりと物事を進める傾向が強い。彼女たちには、やや形式的に感じられるかもしれませんが、プロセスの重要性を意識してもらえるように努めています。

コミュニケーションが得意なクィンには、個性を活かせるようにサポートしています。また、総合的な商談能力を高めてもらうため、専門の鉄スクラップ以外の原材料や鉄鋼製品にも挑戦させています。成長の進むベトナム社会では、若者のキャリアアップ志向が非常に強いです。着実にスキルを高め、成果に対してやりがいを感じられるような職場づくりを心掛けています。私にとっても、駐在先であるベトナムの発展がやりがいです。現地スタッフがもっと活躍できるよう、ビジネスを拡大していきたいです。



チームワークで挑む プロジェクト推進

JFE エンジニアリング
ヤンゴンごみ焼却発電プラントプロジェクト
プロジェクトマネージャー
大山　努

結束。



ミャンマー史上初の挑戦 ごみ焼却発電プラントの建設

ミャンマー最大の都市・ヤンゴン。急速な経済成長の途上にあるこの街では、増加するごみと慢性的な電力不足が深刻な社会問題となっている。その課題に立ち向かうのが、大山努を中心としたプロジェクトチームだ。大山は語る。

「JFE エンジニアリングには、国内でのごみ焼却発電プラント建設や、ミャンマーで手掛けてきた事業で、多くの実績があります。そのおかげで、今回ヤンゴン市から相談を受けることができました。信頼を裏切るわけにはいきません」



プロジェクトマネージャーに抜擢された大山は、ミャンマー国内で初となるごみ焼却発電プラントの計画に着手した。年間約5,200MWhを発電し、約2,400トンのCO_2削減を可能にするプラント建設計画は、現地のネットワークを生かした調査力とJFEの技術力を結集した賜物だ。

「最大の壁は、約20億円におよぶ建設費用です。これは、ヤンゴン市の予算だけでは賄いきれない数字。日本の環境省とミャンマー中央政府からも支援を受ける必要があります。2カ国間を何度も行き来し、プラント建設の意義を説明しました」

2年間におよぶ渉外活動の末、ミャンマー政府から特別国家予算を獲得。竣工に向け、プロジェクトが始動した。

互いを尊重する信頼関係がチームを成長させてきた

大山を支えるプロジェクトチームは、設計、調達、建設など、現地に駐在する各部門の専門家で構成される。さらに、日本国内のスタッフや、経験豊富なOBスタッフがバックアップ。前例のないプロジェクトに臨むため、総力を結集して万全の体制を整えた。

「ナショナルスタッフはプロジェクト始動時に採用しました。民主化によってミャンマー国外から多くのエンジニアが帰国しています。われわれは豊富な国際経験を持つスタッフを採用しました。メンバーの中には、ごみ焼却発電プラントの建設や運転の経験があるスタッフもいます。彼らは技術系の業務にとどまらず、書類作成や打ち合わせなど、あらゆる場面で活躍しています」

軍事政権の続いたミャンマーの人々は、外国人に心を開いて話さない傾向があるという。ナショナルスタッフが打ち合わせに参加することで、交渉がスムーズになるのだ。

「彼らが全体の方針や計画を理解して交渉を進められるよう、チーム内で何度も打ち合わせを重ねてきました。勤勉で向上心が強い彼らには、私も学ぶべき点が多いです。“日系企業のマネージャーと現地スタッフ”という関係ではなく、“一人の技術者”として接しています」

チームの結束力は、プロジェクト始動時から格段に高まったと大山は語る。残された課題は、2017年の竣工に向け、計画通りに業務を進めることだ。

「このプロジェクトが成功すれば、ミャンマーでより大きなプロジェクトを任されるかもしれません。他国で展開するJFEにとっても、大きな実績になるはずです。JFE全体の事業領域を広げるためにも、チームみんなで協力し合い、プロジェクトを完遂します」。

PROFILE
おおやま・つとむ
JFE エンジニアリング 都市環境本部海外事業部。2002年入社。2015年10月、ヤンゴンごみ焼却発電プラントプロジェクトでプロジェクトマネージャーに就任。

このプロジェクトチームで全力を尽くす

JFE エンジニアリング
ヤンゴンごみ焼却発電プラントプロジェクト
ナショナルスタッフ



ミョー ミン Myo Min　インジン コ コ Ingyin Ko Ko　ニョー イー タン Nyo Yi Thant　スエ ジン タン Swe Zin Thant

技術スタッフであるわれわれに対し、大山さんは書類やスケジュールの管理、ビジネスマナーなど、基本的なことを親身に指導してくれました。また、頻繁にミーティングを開き、それぞれの抱える問題をチーム全体で共有。私たちが一つのアイデアに固執してしまうのに対し、大山さんは常に複数のアイデアを提案して柔軟に解決に導いてくれます。ミャンマーでは、トップダウン式のビジネスが主流で、現場が閉鎖的な空気になってしまうことが多いのですが、JFEのスタッフは、私たちに裁量を与え、一緒に仕事をしていくスタイルなので、やりがいを持って働くことができています。

何よりの喜びは、プロジェクトを通じてミャンマーの発展に貢献できること。プラントの完成によりヤンゴンの街並みが美しくなるのも楽しみです。インフラ整備の領域で、より大きな仕事ができるよう、彼のようなプロジェクトマネージャーを目指してスキルを高めていきます。



JFE グループの
概況
OVERVIEW

JFE グループ

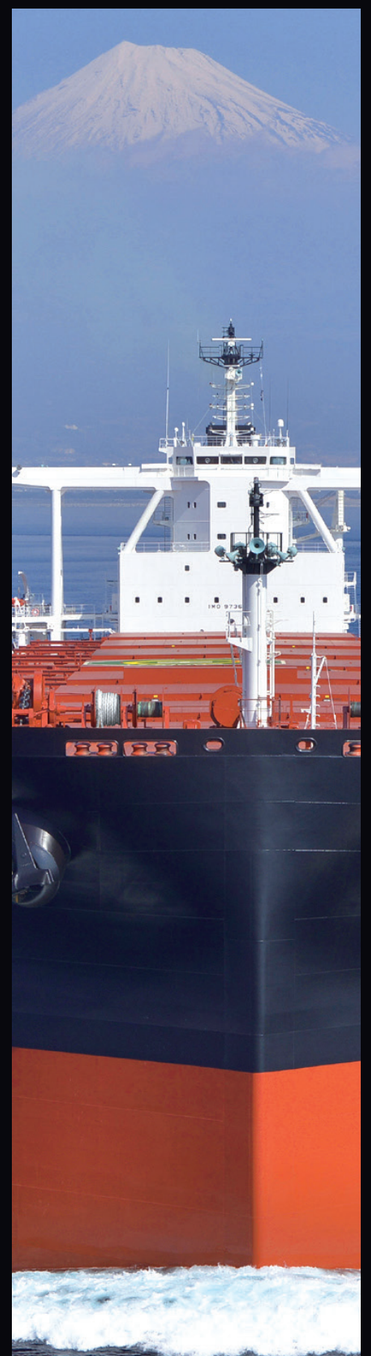
鉄を中核とした“素材の可能性”を社会に幅広く活かしています



JFE グループは、
2002年、NKKと川崎製鉄が
持株会社「JFE ホールディングス」を
設立してスタートしました。
以来、「常に世界最高の技術をもって
社会に貢献する」ことを企業理念に、
21世紀のエクセレントカンパニー集団を
目指しています。







JFE ホールディングス

戦略機能を発揮して企業価値を最大化

JFE ホールディングスは、持株会社としてグループ全体の経営戦略策定や資金調達を行うとともに、上場会社として対外的な情報発信を担っています。



3兆4,317億円
(2015年度)

JFE スチール	71.2%（2兆4,451億円）
JFE エンジニアリング	11.5%（3,975億円）
JFE 商事	51.1%（1兆7,564億円）

※グループ内取引調整額　△34.0%（1兆1,674億円）

JFE スチール

ニーズに対応する高機能商品を展開

世界トップクラスの銑鋼一貫メーカーです。東西2大製鉄所体制による高い国際競争力を持ち、世界有数の技術と商品開発力を活かした「お客様の多様なニーズにお応えする」各種高付加価値商品を製造・販売しています。

JFE エンジニアリング

環境、エネルギー分野で最新技術を提供

コアとしている都市環境・エネルギー分野では、多様な資源をクリーンエネルギーとして有効利用するための技術を提供しています。また、橋梁などの鋼構造や産業機械の分野にも事業を展開しています。

JFE 商事

グループ中核商社として、新たな価値を創造

鉄鋼製品の取り扱いを中心に、鉄鋼原料・非鉄金属・化学品・燃料・資機材・船舶の国内取引および輸出入取引を行い、食品・エレクトロニクス事業も展開しています。

ジャパン マリンユナイテッド

省エネ技術を強みにグローバルなニーズに対応

7事業所・工場、2技術研究所体制で、タンカー・撒積み船・コンテナ船などの大型一般商船や護衛艦・掃海艇などの各種艦艇、砕氷艦の建造、修繕を手掛けています。





JFE スチール 株式会社
代表取締役社長（CEO）
柿木 厚司

JFE スチール

**製造実力の向上にいっそう磨きをかけ、
常に新たな価値を創造し、
お客様とともに成長する
グローバル鉄鋼サプライヤーを目指します**

JFE スチールは、世界トップクラスの技術力と効率性の高い生産拠点を有し、増大する高級鋼需要に応えてきました。
足元は厳しい事業環境が続いていますが、将来を見据え、
・設備投資や人材育成の推進による「国内製造基盤整備の強化」
・成長が期待される分野・地域への「海外投資」
・技術優位性を高めるための「研究開発の強化」
これらの施策を着実に実施し、製造実力の向上を図ります。
当社はこれからも、
さまざまな高付加価値・高機能商品を提供することにより、
お客様の多様なニーズにお応えすべく、
挑戦し続けてまいります。

国内製造基盤整備の強化

国内製造拠点の操業安定化・コスト競争力の向上を目的に、重点課題として、設備・人の両面での製造基盤整備に取り組んでいます。設備については、補修・リフレッシュ工事を積極的に進め、設備の競争力を維持・強化していきます。具体例としては、原料荷役・運搬設備の集中補修やコークス炉などの設備更新を進めています。人については、多様な人材の採用を進めるとともに、職場ごとに人材育成の専任者を配置する「テクニカル エキスパート制度」を導入するなど、技能伝承に重点を置いた取り組みを着実に進めていきます。

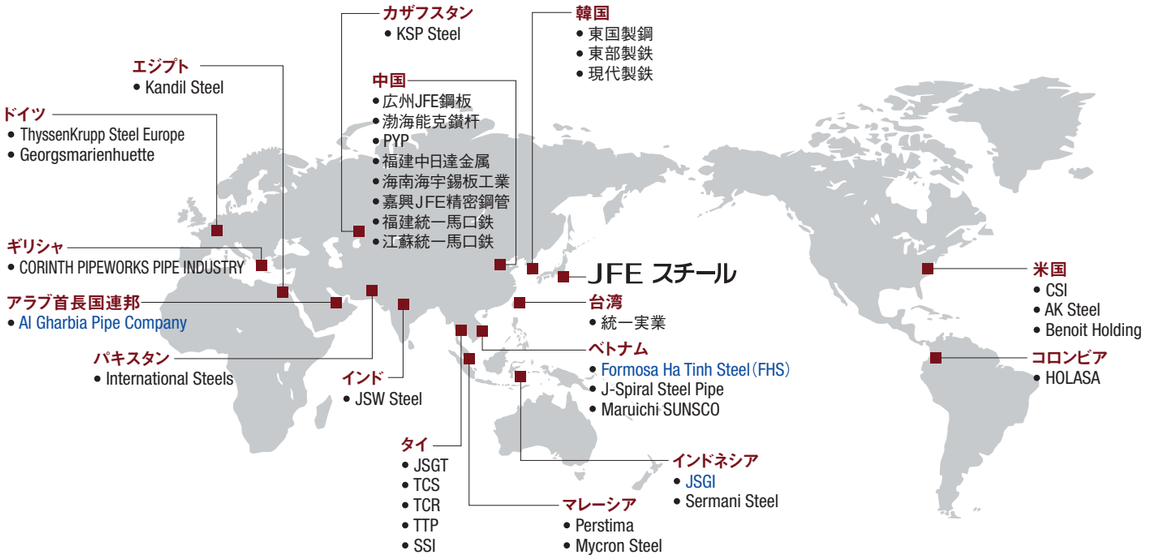




伸びゆく世界市場へ着実にアクセス

拡大が見込まれる世界の鉄鋼マーケットに対応するために、JFE スチールではさまざまな施策を実施しています。自動車用鋼板の供給体制については、中国・タイ・インドネシアにある製造拠点やインドのアライアンス先を通じて、高級鋼の製造・販売ネットワークを確立しています。また、中長期的に需要が見込まれるエネルギー鋼管についても供給体制の整備を進めており、伊藤忠丸紅鉄鋼、アブダビ首長国100%出資の投資事業会社SENAAT社と共に大径溶接鋼管の製造・販売会社を設立し、現在アブダビに工場を建設中です。また、海外製造拠点として、ベトナムで一貫製鉄所を建設中のFHS社に対して資本参加すること、および技術支援・供与を行うことを決定しました。

■ 主要な出資・アライアンス先



ベトナム一貫製鉄所プロジェクトへ参画

台湾プラスチックグループがベトナムで実行中の一貫製鉄所プロジェクトに資本参加すること、および技術支援・供与を行うことを決定しました。本プロジェクトを遂行する合弁会社FHS社がベトナム初となる大規模一貫製鉄所を建設し、各設備が順次稼働しています。FHS社の早期の安定稼働に向け協力するとともに、FHS社において製造された製品を当社を通じて出資先やお客様に販売することで、今後の成長に結びつけていく予定です。



一貫製鉄所の象徴である高炉



アブダビでの鍬入れ式実施

当社と伊藤忠丸紅鉄鋼、およびアブダビ首長国100%出資の投資事業会社であるSENAAT社が出資するAl Gharbia Pipe Companyは、2016年4月にアブダビにある大径溶接鋼管工場の建設予定地で鍬入れ式を行いました。各社の社長をはじめ、政府や工事関係者など計80名程度が参加し、工事の安全とプロジェクトの成功を祈願しました。

インドネシアのCGLが稼働

当社が100%出資しているPT. JFE Steel Galvanizing Indonesia（JSGI）でインドネシア初の自動車用溶融亜鉛鍍金製造設備（Continuous Galvanizing Line：CGL）が稼働しました。今後は、お客様の承認を経て、本格的に営業生産を開始する予定です。本事業により、既に稼働中の中国・タイにつづきアジア地域の3拠点で自動車用溶融亜鉛鍍金製造設備を展開することとなります。



JFE スチールが日本で製造した原板を鍍金しています

コークス炉更新

国内製造基盤整備の一環として、現在コークス炉の更新を順次進めています。それらが全て稼働すると、全社コークス自給化が可能となり、大幅なコスト削減と競争力強化が見込まれます。



西日本製鉄所（倉敷地区）第3コークス炉

高機能冷延ハイテンと難加工部品用の成形技術を新開発

優れた伸び特性と穴広げ性を両立する980MPa級の高張力冷延鋼板を開発しました。従来材と比較して、伸び値は2割向上、穴広げ率も2倍高くなっています。複雑な形状の部品が高強度化できることで、さらなる車体衝突性能の向上と、軽量化による燃費向上に貢献します。

また、これまで鋼材では加工できなかった部品にも適用できる、新しい成形技術も開発。軟鋼から超ハイテン材まで強度にかかわらず適用できるため、部品の性能やデザイン性の向上、軽量化に寄与します。



新しい成形技術を用いて加工した自動車のバックドア

水素ステーション用の蓄圧器を新開発

当社とJFE コンテイナーは、水素ステーションの建設コスト低減に寄与する蓄圧器を開発しています。これはJFE コンテイナーが設計し、当社の鋼管を利用したライナー本体に炭素繊維を巻きつけた、水素を貯蔵するための容器です。シンプルなストレート型の形状で、材料コストとメンテナンスコストを低減させます。



長さ約1.6mの試作品

Highlights 2015

2015年

- **4月**
  - 世界最高圧100MPa高圧水素ガス透過試験装置を開発
  - 文部科学大臣賞表彰式（地震対応技術）
- **5月**
  - JFE西日本硬式野球部がJABAベーブルース杯争奪大会初優勝
  - 福山地区と京浜地区で祭りを開催
- **6月**
  - 東日本製鉄所累計粗鋼1億トン達成
  - 全国発明表彰「発明賞」表彰式（HOP-HIPER®）
- **7月**
  - 大型コンテナ船向け構造アレスト技術が世界初適用
  - 千葉地区西発電所4号機稼働
  - JFE西日本硬式野球部が都市対抗野球出場
- **8月**
  - JFEファミリーデー初開催
- **9月**
  - ベトナム一貫製鉄所プロジェクトへの参画契約締結
  - JFEメカニカル・JFE電制統合発表
- **10月**
  - 千葉地区第6コークス炉A団更新工事鍛入れ
  - 千葉地区で祭りを開催
  - 中国・嘉興JFE精密鋼管開業式典を開催
- **11月**
  - 倉敷地区で祭りを開催
  - ものづくり日本大賞表彰式（JFE-TF1）
  - 知多製造所で祭りを開催
  - JFE東西硬式野球部が第41回日本選手権出場
  - 京浜地区研究所開設80周年イベントを開催
  - 水素ステーションのコスト低減と長寿命化に寄与する蓄圧器を開発
- **12月**
  - 地球温暖化防止活動環境大臣表彰表彰式（Super-SINTER®）
  - 難加工部品用成形技術を開発
  - 高伸び高穴広げ性ハイテンを開発

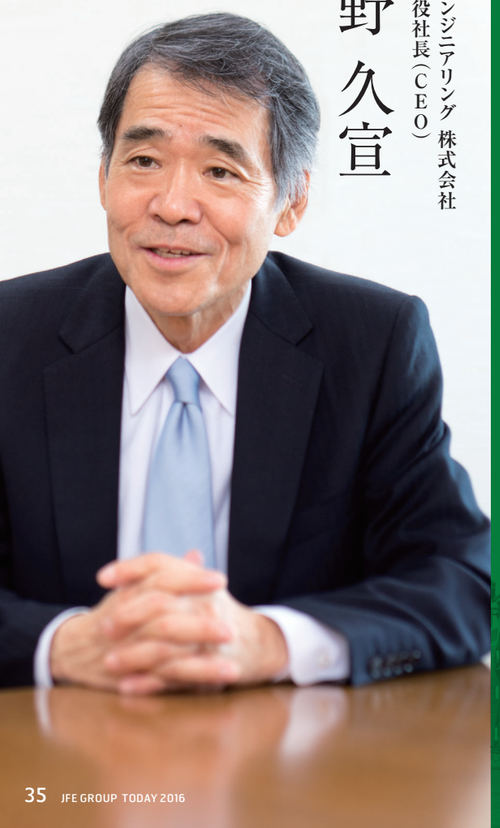
2016年

- **1月**
  - インドネシアのCGL稼働
  - 千葉地区事業所内保育所の開設決定
  - 千葉地区第6コークス炉B団更新決定
- **2月**
  - 倉敷地区第3コークス炉更新完工・稼働
  - 全日本実業団ハーフマラソン大会でJFEスチール競走部のディランゴ選手が優勝
  - 新機械振興賞表彰式（NEOプレス）
- **3月**
  - エジプト・Kandil社への出資発表
  - 岩谷直治記念賞贈呈式(クロム鉱石加熱バーナー)
  - 市村産業賞受賞（Super-CR）
  - 大河内賞贈賞式（マイティーシーム®）



3月に運営を開始した熊本市新西部環境工場。災害時には緊急一時避難所としての利用が可能な設計となっています。平成28年熊本地震において、地域住民の方々最大約300名の避難場所となりました。

JFE エンジニアリング



JFE エンジニアリング 株式会社
代表取締役社長（CEO）
狩野 久宣

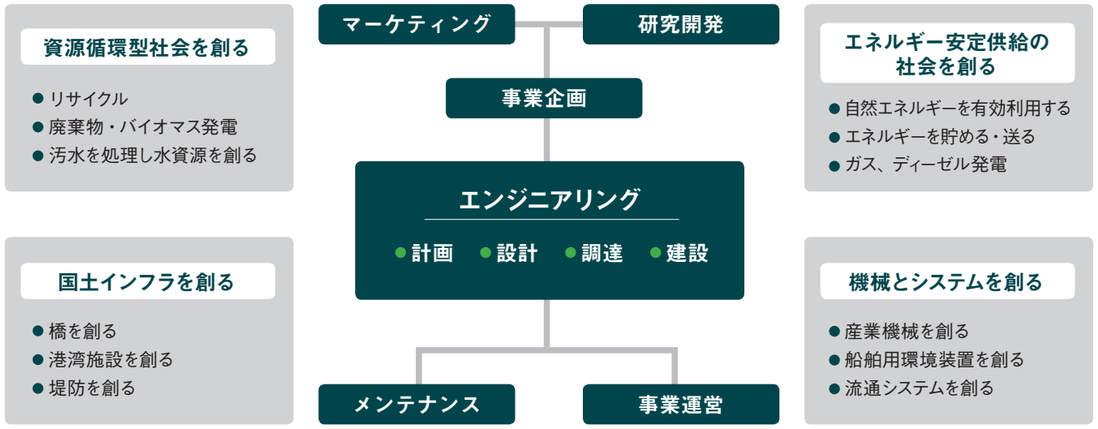
最先端技術力をベースとした商品・サービスの提供により、時代の変化に適応し、常に世界をリードするエンジニアリングカンパニーを目指します

JFE エンジニアリングは、人々の生活と産業を支えるエンジニアリング事業を展開しています。
天然ガス関連、廃棄物や下水汚泥をエネルギーとして利用する最新技術など豊富な実績を有しています。
加えて近年では、バイオマス・太陽光・地熱などの再生可能エネルギーによる発電プラントも数多く手掛けています。
また、交通や物流、上下水などのインフラ建設においては、高品質の技術力を用いて、国内はもとより、世界各国の成長に大きく寄与しています。
当社は「くらしの礎（もと）を創る」企業として、これからも絶えず、社会に最適解を提供してまいります。

提案から運営までの一貫ソリューション

エンジニアリング企業に求められる役割は変わりつつあります。当社は建設主体の従来スタイルに加えて、提案から建設、運営まで一貫して関わるビジネスを推進しています。都市環境・アクアソリューション分野ではPFI（Private Finance Initiative）やDBO（Design Build Operate）発注方式などの包括契約案件に積極的に取り組んでいます。

■ 事業概要



ワンストップでの電力創生ビジネス

電力自由化のもとで新しい電力の創生が期待されているバイオマス発電、太陽光発電、地熱発電などに幅広く取り組みます。事業企画からプラントの設計建設、事業運営までワンストップのエンジニアリングサービスを展開し、収益基盤の強化・拡大に努めてまいります。

グローバルエンジニアリング体制の推進による海外事業の拡大

各国拠点に整備した営業、調達、設計、製造などの機能を最大活用することで、グローバルエンジニアリング体制をさらに推進させ、廃棄物処理プラント・水処理プラントなどの環境エネルギー分野や橋梁などのインフラ構築分野を中心に、海外事業の拡大を進めてまいります。



JFEテクノマニラ創立20周年とマニラ支店開設の記念式典



大型桟橋ジャケット製作完了

LNG受入桟橋ジャケットが津製作所から富山へ向け出航しました。当社は富山新港LNG基地建設プロジェクトの主要設備すべての建設を請け負っており、2018年の完成を目指しています。

川崎市と廃棄物発電によるごみ収集の実証試験を開始

ごみ焼却発電施設で発電する電力を電池交換型ＥＶごみ収集車に活用する日本初の実証試験を行いました。実証試験を経て、電池交換型EVごみ収集車を活用したごみ収集の実用化を目指します。



JFEバラストエース®トレーニングセンター開設

受注累計実績 1000 隻を超えるバラスト水処理システム「JFE バラストエース®」。試運転とメンテナンスの要員を育成し、世界各地にグローバルサービス体制を構築します。



横浜市より汚泥有効利用PFI事業受注

下水汚泥から燃料化物と改良土をつくるＰＦＩ事業。下水処理過程において発生する下水汚泥を有効利用し、温室効果ガス排出量を従来より約30%削減します。



倉敷大規模食料コンビナート受注

JA全農グループとJオイルミルズより、倉敷・玉島ハーバーアイランドに建設される食料コンビナートを受注しました。プロジェクトの構想段階から検討に参画し、幅広いコンサルテーション力が高く評価されました。



ミャンマー・ヤンゴン市の高架橋完工

コーカイン高架橋が完成しました。製作はミャンマー国建設省と当社の合弁会社のJ&Mスチールソリューションズです。同社は2014年の工場操業開始以来フル稼働が続いており、2016年4月には生産能力を倍増、年産2万トンに拡大しています。





英国の大型廃棄物発電所完工

当社グループのバウムガルテボイラシステムズ社が完成させた英国プリマス市の廃棄物発電施設は、日量約800トンの廃棄物を一炉で処理します。総合エネルギー効率は約49%に達し、電気と熱は海軍基地に供給しています。



ミャンマー初のごみ焼却発電プラント受注

CO_2排出削減に関する二国間クレジット制度を適用するごみ焼却発電プロジェクトの第一号案件です。2017年の完成後、ヤンゴン市が運転を行い、同国のごみ適正処理と電力不足を解消します。



Highlights 2015

2015年

4月
- 「JFEバラストエース®」、北米航路就航船に採用
- 相馬・岩沼間ガスパイプライン建設工事を受注

5月
- ハイブリッド防潮堤を宮古・気仙沼で連続受注
- トンネル用シールド掘進機事業統合に関する基本合意書を締結
- SGET釧路鶴野メガソーラー発電所（21.7MW）、西条小松太陽光発電所（33.8MW）完工
- プレファブステーション「Arc横浜」稼働

6月
- ガス導管ネットワークの高速耐震診断プログラム（NeEX）が日本ガス協会　平成27年度技術賞を受賞

7月
- 断層用鋼管を採用した神戸市大容量送水管完工
- 「ハイブリッド防潮堤」国土技術開発賞優秀賞を受賞
- 山口県岩国市の都市環境プラントを受注

8月
- ミャンマー・インセイン跨線橋完工
- 福島県楢葉町の焼却・減容化処理を受注

9月
- 新型熱量調整装置「AtoMS」を石狩LNG基地で採用
- 東京港新ターミナル向けコンテナクレーン3基を受注

10月
- 英国の大型廃棄物発電所完工
- 低コスト、コンパクトなBOG再液化設備を東邦ガスと共同開発
- マニラ支店開設

11月
- JFEバラストエース®トレーニングセンター開設
- ミャンマー初のごみ焼却発電プラントを受注
- 練馬清掃工場完工
- 昭和シェル石油向け京浜バイオマス発電所完工
- バングラデシュのカチプール・メグナ・グムティ第2橋の橋梁建設・既設橋改修事業を受注
- 福島・土湯温泉のバイナリー発電稼働

12月
- 甲府脳神経外科病院向けPET検査システム受注
- ミャンマー　ティラワ経済特別区のジャケット桟橋を受注

2016年

1月
- 小売電力10万kW突破、IKEAへ電力供給開始（アーバンエナジー）

2月
- 横浜市より汚泥有効利用PFI事業を受注
- ミャンマー　コーカイン高架橋完工
- 神奈川県企業庁と水道スマートメーター共同研究を実施
- 防爆スマートフォン（LANEX®-Phone）販売開始
- 大名古屋ビルヂング地下のサイクルツリー供用開始

3月
- 熊本市新西部環境工場完工 運営開始
- 川崎市と廃棄物発電によるごみ収集の実証試験を開始
- 倉敷大規模食料コンビナート建設を受注
- 東埼玉資源環境組合第二工場完工
- 福岡都市圏南部環境事業組合 新南部工場完工
- 豊中市伊丹市クリーンランド完工
- ヤンゴン市と飲料水事業共同実証試験開始



日系の OA 機器メーカーをはじめ各国の家電メーカーなどが進出するベトナム・ハイフォンで唯一の鋼材加工センターを展開。加工機能にとどまらずトレード機能もプラスした総合鋼材加工販売会社を目指しています。

JFE 商事



JFE 商事 株式会社
代表取締役社長（CEO）
織田 直祐

JFE グループの中核商社としての機能を磨き上げ、社会・市場において存在感のある力強い企業集団を目指します

JFE 商事は、鉄鋼製品の取り扱いを中心に、
鉄鋼原料・資機材などの国内取引、輸出入を行うほか、
食品・エレクトロニクス事業なども展開しています。
国内市場ではグループ会社間の連携を強めながら、最適な販売体制を構築。海外では世界19カ国にある拠点のネットワークをフルに活用し、JFE グループの輸出戦略に貢献しています。
合わせて、お客様とのビジネス拡大に貢献できる機能をいっそう強化すべく、鋼材加工センターの新規進出、加工機能の拡充、合弁による製造・販社の設立など、“独自性のある商社機能”を充実させています。
また、JFE グループ各社向けに、コスト競争力のある原材料・資機材の安定的な供給も推進するなど、
JFE グループの中核商社として、さまざまな挑戦を続けてまいります。

メキシコで引抜鋼管合弁事業会社を設立

メキシコの大手鋼管メーカーのProductos Laminados de Monterrey S.A. de C.V. 、冷間引抜鋼管の製造・販売を行う大阪市のサンキン社と、自動車用を主力とした引抜鋼管の製造・販売を行う合弁会社を設立しました。メキシコでは現在、多くの欧米・日系の自動車関連産業が進出しており、引抜鋼管についても現地調達のニーズが高まっています。新会社はメキシコ・モンテレイ市近郊に本社を構え、2016年秋頃からの製造・販売開始を予定しており、年間6～8万トンと推定されるメキシコの自動車用引抜鋼管の需要を着実に捕捉していきます。



インドネシアで自動車鋼板の生産拠点を拡大

インドネシアの薄板加工拠点、JFE 商事スチール・インドネシアは、自動車用鋼板加工を専門とする第二工場を増強します。現存する工場建屋を3割程度拡張し、自動車向けの高張力鋼板や幅広のコイルも加工可能な大型スリッターを導入。近接するJFE スチールの現地自動車用薄板鋼板事業会社との連携強化を進めながら、拡大するインドネシアの自動車鋼板需要を捕捉していきます。





Highlights 2015

2015年

4月
- JFE 商事グループにおける棒線事業を統合
- 自動車鋼材本部を新設
- 自動車鋼材貿易部第一自動車貿易室がスズキ・インドモービル・モーター社よりベストパートナー賞を受賞
- 電機鋼材貿易部電機鋼材貿易室が富士ゼロックスのプレミアパートナーに4年連続認定

5月
- JFE 商事鋼管管材がインドネシアに駐在員を派遣
- タイの鋼材加工センターCentral Metals (Thailand) Ltd.が三菱電機グループ Kang Yong Electric Public Co.,Ltdより優秀サプライヤー賞を受賞

6月
- Central Metals (Thailand) Ltd.が東北パイオニア・タイランド社から優秀サプライヤー賞を受賞

8月
- 第2回ナショナルスタッフマネジメント研修を東京本社で開催

9月
- ASEAN地域各鋼材加工センターがナショナルスタッフ営業者会議を開催

10月
- JFE 商事大阪ブリキセンターと新キヨイ鋼業が経営統合し、JFE 商事ブリキセンターが誕生
- 燃料部およびJFE 商事エレクトロニクスが合同で「METALEX Vietnam 2015」に出展

12月
- 国内鋼材加工センター 水島鋼板工業が工場建屋にソーラーパネルを設置

2016年

1月
- JFE 商事コイルセンターが小倉クラッチより最優秀優良貢献企業として表彰

2月
- インドの鋼材加工センター JFE Shoji Steel India Private Limited がバンガロールで開催された電気・電子業界の展示会「ELECRAMA 2016」に初出展
- 不動産部が展開する茨城県土浦市の「土浦ニュータウン おおつ野ヒルズ」において、総合病院土浦協同病院が完成



ジャパン マリンユナイテッド 株式会社
代表取締役社長（CEO）
三島 愼次郎

ジャパン マリンユナイテッド

造船業界のリーディングカンパニーを目指し、「技術」と「ものづくり」で社会の発展に貢献します

国内造船会社として、「開発・技術力」、「営業力」、「研究設備」など最大級の陣容と規模を活用し、商品ラインアップの拡充を図るとともに、省エネ・環境負荷低減技術の開発にいち早く取り組み、お客様から高い評価をいただいてまいりました。
今後もお客様のニーズに応える優れた性能と品質の船をタイムリーに提供し、国内海事クラスターの一員として、海上物流と海上安全に貢献してまいります。

最新鋭の低燃費・低CO_2排出自動車運搬船竣工



統合により充実した開発・設計力を武器に取り組んだ戦略商品の建造が各事業所でスタート。2016年2月には自動車運搬船（PCTC）の1番船、続いて14,000TEUコンテナ船を無事に引き渡しました。

有明事業所で建造した川崎汽船向けの自動車運搬船「DRIVE GREEN HIGHWAY」は、パナマ運河拡張に対応した幅広新船型の次世代型自動車運搬船です。大幅な積載車両数の増加を実現しながら、低燃費技術を採用することにより、既存船対比で輸送車両1台あたりのCO_2排出量を約25%削減します。積載貨物は一般的な乗用車のみならず重建機類・鉄道車両なども搭載可能なデッキ構成となっています。本船は川崎汽船が立ち上げた「DRIVE GREEN PROJECT」のフラッグシップとして、環境性能に特化する機器を搭載する次世代の低燃費・低CO_2排出船です。

Highlights 2015

2015年

6月
- フィリピン共和国向け多目的船10隻受注

7月
- 松本光一郎、海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）を受賞
- 豊田昌信と新谷琢磨が海事関係功労者（国土交通大臣）表彰を受賞

8月
- 平成24年度計画ヘリコプター搭載型護衛艦（DDH）「かが」進水

9月
- 平成27年度計画護衛艦（27DDG）を受注

11月
- 新谷琢磨、ものづくり日本大賞（内閣総理大臣賞）を受賞

12月
- ツバル向け貨客船「NIVAGAⅢ」引渡し

2016年

2月
- 低燃費・低CO_2排出自動車運搬船「DRIVE GREEN HIGHWAY」命名・引渡し
- 14,000TEU型省エネコンテナ船「NYK BLUE JAY」引渡し
- 「Sea-Navi®」が優秀省エネルギー機器表彰で「資源エネルギー庁長官賞」を受賞

「Sea-Navi®」が優秀省エネルギー機器表彰「資源エネルギー庁長官賞」を受賞

当社が開発した運航支援システム「Sea-Navi®」は、第36回（平成27年度）優秀省エネルギー機器表彰（一般社団法人 日本機械工業連合会主催）において、「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

「Sea-Navi®」は、風・波・海流などの悪影響が少ない航路を探索して運航時の省エネルギーを実現するシステムです。海気象予報データと高度な性能推定法を用いた高精度の燃料消費量推定とオリジナルの探索手法を組み合わせることにより航路を最適化し、実海域運航時の燃料消費量を大きく低減します。これまで多数の当社建造船に搭載され、従来運航法に比べ年平均2～5%の燃料消費量低減効果が確認されています。また本システムは、CO_2、NOx、SOxなどの有害排気物質排出量も低減し、地球環境改善に寄与しています。

JFE グループの歩み

川崎製鉄



1878.4
川崎正蔵が東京築地に川崎築地造船所を創業



1896.10
（株）川崎造船所を設立
〈のち川崎重工業（株）と改称〉



1917.5
兵庫県神戸市に葺合工場を開設



1943.8
愛知県半田市に知多工場を開設



1950.8
川崎重工業（株）の製鉄部門を分離・独立し、川崎製鉄（株）を設立
〈初代社長 西山彌太郎〉



1951.2
戦後わが国初の近代的銑鋼一貫製鉄所となる千葉製鉄所を開設



1961.7
岡山県倉敷市に水島製鉄所開設



1969.7
千葉製鉄所西工場埋め立て開始

日本鋼管（NKK）



1912.6
日本鋼管（株）を設立
〈初代社長 白石元治郎〉



1916.4
（株）横浜造船所を設立
〈のち（株）浅野造船所に改称〉



1936.6
最初の高炉に火入れし、銑鋼一貫体制を確立



1940.10
鶴見製鉄造船（株）
〈旧（株）浅野造船所〉を合併



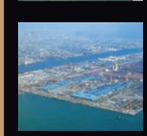
1965.2
福山製鉄所を開設



1968.4
京浜製鉄所を開設
〈川崎・鶴見・水江の3製鉄所を統合〉



1969.1
津造船所発足



1971.12
京浜製鉄所扇島建設に着工

2002年9月27日　JFE ホールディングス発足

2003年4月1日　事業会社設立

- JFE スチール
- JFE エンジニアリング
- JFE 都市開発
- 川崎マイクロエレクトロニクス
- JFE 技研
- JFE 商事
- ユニバーサル造船

2013年1月1日～

JFE ホールディングス

- JFE スチール
- JFE エンジニアリング
- JFE 商事
- 持分法適用会社：ジャパン マリンユナイテッド

持続可能な社会の発展のために

JFE グループは、地球環境の保全にいっそう努め、環境と調和した企業として発展を目指すとともに、社会の要請に誠実に応え、全てのステークホルダーから信頼される企業を目指しています。

お客様・お取引先様とともに

各種認証やマネジメントシステムを整備するとともに、お客様と一体となった商品開発施設を開設するなど、お客様のニーズに基づく高品質な商品・サービスの提供を通じて、お客様の競争力向上に貢献します。



カスタマーセンター福山

株主・投資家の皆様とともに

適時・適切な会社情報の提供を重視し、即時性の高いウェブサイトを活用しているほか、決算発表の早期化に努めています。また、事業活動への理解を深めていただくため、工場見学会やIR説明会を開催しています。



株主工場見学会

地球環境に優しい製造プロセス

鉄鋼事業の製造プロセスにおけるエネルギー効率は、省エネルギー設備の導入などを推進してきた結果、世界最高水準を達成しています。さらなる技術開発により、省資源・省エネルギーおよび環境負荷低減に継続して取り組みます。



フェロコークス製造設備

環境配慮製品・サービス提供

低炭素社会の構築に不可欠な高機能鋼材の供給やリサイクル事業、再生可能エネルギーの取り組みなど、製品やサービスを通じてエコな社会の構築に貢献しています。



ソーラー発電



社会の発展

お客様・お取引先 → 企業理念
株主・投資家 → 企業理念
従業員 → 企業行動指針
地域社会 → 企業行動指針

環境との調和



環境理念
環境方針

従業員とともに

多様な従業員が活力を持って働ける職場環境を目指して、雇用の促進や健全な労使関係の継続、安全で働きやすい職場環境の整備、障がい者雇用、人権を尊重した行動の促進などに取り組んでいます。



製造現場で活躍する女性社員

地域社会の皆様とともに

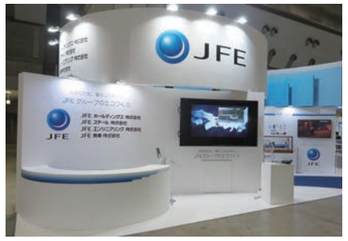
事業拠点を展開する地域社会の発展に貢献するため、大学研究・教育分野の催し、文化活動や福祉活動、災害復旧活動への支援など、さまざまな社会貢献活動を継続的に実施しています。



ものづくり教室

社会の要請に応えるソリューション

世界最高水準の技術や製品を、途上国を中心に世界各地に移転・普及させていくことにより、地球規模での省資源・省エネルギーに貢献しています。



エコプロダクツ2015

JFE グループCSR報告書
(2016年9月発行予定)

JFEグループCSR報告書では、社会・環境側面について、より詳細な情報を掲載しています。

http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/

JFE ホールディングス および 連結子会社

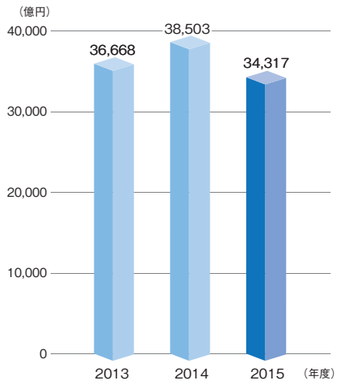
（億円）

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
▶経営成績（会計年度）					
売上高	31,665	31,891	36,668	38,503	34,317
営業利益	447	398	1,533	2,225	906
金利前経常利益※1	680	665	1,876	2,455	765
経常利益	529	522	1,736	2,310	642
親会社株主に帰属する当期純利益	△366	395	1,023	1,393	336
▶キャッシュ・フロー（会計年度）					
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,100	2,870	2,548	2,973	2,671
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,054	△1,636	△1,640	△2,163	△1,373
フリー・キャッシュ・フロー※2	△954	1,234	907	810	1,297
財務活動によるキャッシュ・フロー	960	△1,475	△1,055	△782	△1,445
▶財政状態（会計年度末）					
総資産	40,072	41,075	42,417	46,394	42,348
有形固定資産	16,448	16,068	15,991	16,295	16,271
純資産	14,563	15,967	17,459	19,900	18,579
借入金・社債等残高	15,936	15,963	15,340	15,017	13,793
▶設備投資状況その他					
設備投資額	1,974	1,796	1,757	2,259	2,125
減価償却費	2,383	1,940	1,813	1,760	1,779
研究開発費	342	336	311	324	351
粗鋼生産量（万トン）	2,923	3,068	3,158	3,104	2,975
連結従業員数（人）	54,133	57,044	57,210	58,856	59,460
▶財務指標					
売上高経常利益率（ROS）※3	1.7%	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%
総資産金利前経常利益率（ROA）※4	1.7%	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%
自己資本利益率（ROE）※5	△2.6%	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%
自己資本比率	35.3%	37.9%	40.1%	41.8%	42.6%
D/E レシオ※6	83.5%	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%
▶1株当たり情報					
当期純利益（円）	△68.71	71.20	177.44	241.60	58.36
純資産（円）	2,627.63	2,700.83	2,950.61	3,362.22	3,128.36
配当金（円）	20	20	40	60	30

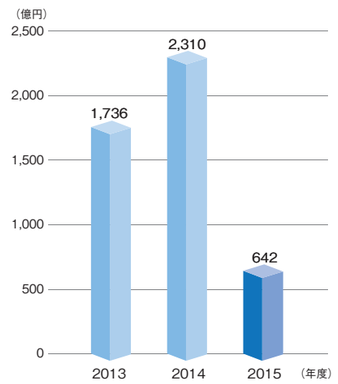
※1 金利前経常利益=経常利益+支払利息
※2 フリー・キャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー
※3 売上高経常利益率（ROS）=経常利益/売上高×100
※4 総資産金利前経常利益率（ROA）=（経常利益+支払利息）/期中平均総資産×100
※5 自己資本利益率（ROE）=当期純利益/ 期中平均自己資本×100
※6 D/Eレシオ=借入金・社債等残高/ 自己資本×100　但し、格付評価上の資本性を併せ持つ負債（3,000億円）について、格付機関の評価により、75%を資本に算入。

［財務情報］株主・投資家の皆様へ　http://www.jfe-holdings.co.jp/investor/index.html

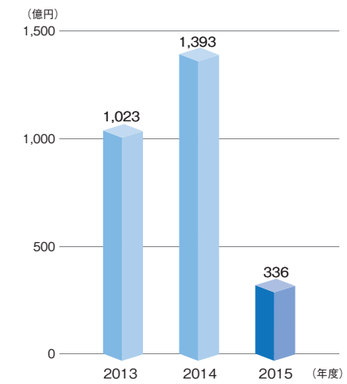
［売上高］



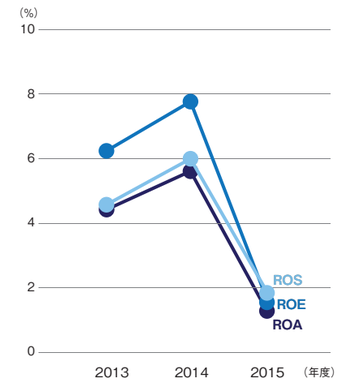
［経常利益］



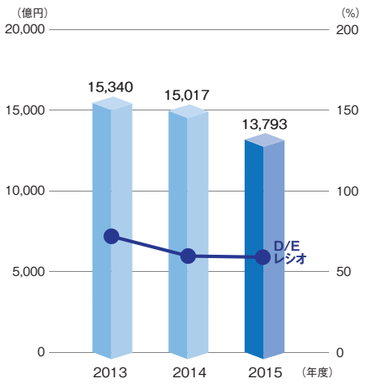
［親会社株主に帰属する当期純利益］



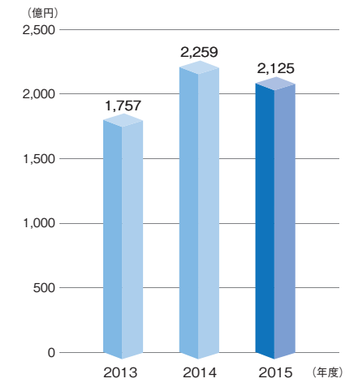
［ROS※3／ROA※4／ROE※5］



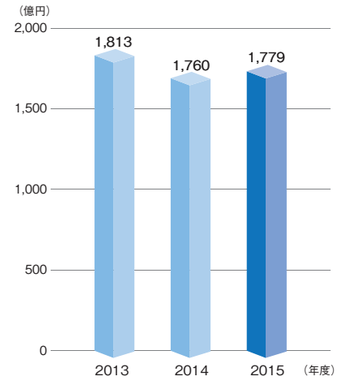
［借入金・社債等残高／D/Eレシオ※6］



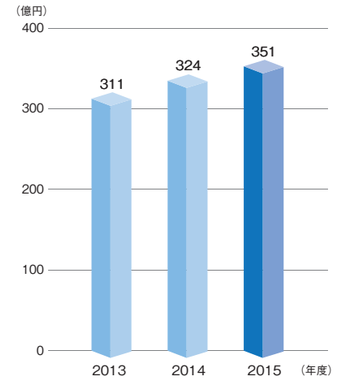
［設備投資額］



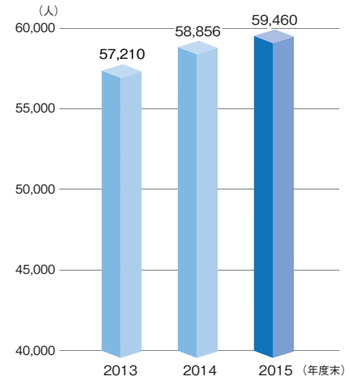
［減価償却費］



［研究開発費］



［連結従業員数］



▶会社概要(2016年4月1日現在)

名称(称号)
JFE ホールディングス 株式会社

英文名称
JFE Holdings, Inc.

[本社所在地] 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
[電 話] 03-3597-4321(代表)

[設立年月日] 2002年9月27日
[資 本 金] 1,471億円
[U R L] http://www.jfe-holdings.co.jp/

▶事業会社・主要グループ会社(2016年4月1日現在)

鉄鋼事業

JFE スチール 株式会社

[本社]東京都千代田区
[売上高]24,451億円 [従業員数]43,874名

国内グループ会社

JFE ミネラル(株)
水島合金鉄(株)
JFE マテリアル(株)
千葉リバーメント(株)
水島リバーメント(株)
JFE 精密(株)
JFE プラリソース(株)
JFE 条鋼(株)
JFE 建材(株)
JFE 鋼板(株)
JFE コンテイナー(株)
JFE 鋼管(株)
JFE 大径鋼管(株)
ガルバテックス(株)
川崎鋼管(株)
JFE 継手(株)
JFE チュービック(株)
JFE テクノワイヤ(株)
リバースチール(株)
JFE 鋼材(株)
JFE 電磁鋼板(株)
大和鋼帯(株)
ジェコス(株)
JFE プラントエンジ(株)
JFE アドバンテック(株)
JFE シビル(株)
(株)JFE 設計
JFE 物流(株)
JFE ウエストテクノロジー(株)
(株)JFE ウイング
JFE テクノリサーチ(株)
JFE システムズ(株)
JFE ケミカル(株)
JFE ライフ(株)
JFE 東日本ジーエス(株)
JFE 西日本ジーエス(株)
JFE アップル東日本(株)
JFE アップル西日本(株)
品川リフラクトリーズ(株)*
日本鋳造(株)*
日本鋳鉄管(株)*
(株)エクサ*
瀬戸内共同火力(株)*
(株)JFE サンソセンター*
水島エコワークス(株)*
千葉熱供給(株)*
エヌケーケーシームレス鋼管(株)*

海外グループ会社

Nova Era Silicon S.A.
Thai Coated Steel Sheet Co., Ltd.
Thai Tinplate Manufacturing Co., Ltd.*
JFE Steel Galvanizing (Thailand) Ltd.
Philippine Sinter Corporation
PT.JFE Steel Galvanizing Indonesia
JFE Steel Australia Resources Pty. Ltd.
California Steel Industries, Inc.*
Hojalata Y Laminados S.A.*
東国製鋼*
福建中日達金属有限公司*
渤海能克鑽杆有限公司*
攀成伊紅石油鋼管有限責任公司*
広州JFE鋼板有限公司*
内蒙古オルドスEJMマンガン合金有限公司*
嘉興JFE精密鋼管有限公司*
JSW Steel Ltd.*
Thai Cold Rolled Steel Sheet Public Co., Ltd.*
P.T. Sermani Steel*
Perusahaan Sadur Malaysia (Perstima) Bhd.*
JFE Steel Tubular Technical Center Pte. Ltd.*
J-Spiral Steel Pipe Co., Ltd.*
Al Gharbia Pipe Company*

エンジニアリング事業

JFE エンジニアリング 株式会社

[本社]東京都千代田区 [横浜本社]横浜市
[売上高]3,975億円 [従業員数]8,967名

国内グループ会社

アーバンエナジー(株)
あすか創建(株)
ジャパン・パイプライン・エンジニアリング(株)
JFE アーバンリサイクル(株)
ジャパン・リサイクル(株)
(株)日本リサイクルマネジメント
JFE 環境サービス(株)
JFE アクアサービス機器(株)
北日本機械(株)
JFE レールリンク(株)
JFE 環境(株)
JFE テクノス(株)
富士化工(株)
東北ドック鉄工(株)
JFE ビジネスサポート横浜(株)
(株)三重データクラフト
JFE キャリアナビ(株)
(株)Jファーム*
ジャパントンネルシステムズ(株)*
スチールプランテック(株)*

海外グループ会社

JFE Techno Manila, Inc.
JFE Engineering (M) SDN. Bhd.
PT. JFE Engineering Indonesia
JFE Engineering India Private Limited
Standardkessel Power Systems Holding GmbH
J&M Steel Solutions Company Limited
PT Erraenersi Konstruksindo (Enerkon)

商社事業

JFE 商事 株式会社

[本社]大阪市 [東京本社]東京都千代田区
[売上高]17,564億円 [従業員数]6,579名

国内グループ会社

川商フーズ(株)
JFE 商事エレクトロニクス(株)
JFE 商事鉄鋼建材(株)
JFE 商事鋼管管材(株)
JFE 商事薄板建材(株)
栃木シャーリング(株)
北陸スチール(株)
大阪スチール(株)
JFE 商事コイルセンター(株)
新潟スチール(株)
大清興業(株)
JFE 商事甲南スチールセンター(株)
内外スチール(株)
水島鋼板工業(株)
水島メタルプロダクツ(株)
(株)九州テック
JFE 商事ブリキセンター(株)
JFE 商事ビジネスサポート(株)
JFE 商事サービス(株)
長野製罐(株)
東洋金属(株)
K&I特殊管販売(株)
門田鋼材(株)
JFE 商事テールワン(株)
JFE 商事石油販売(株)
JFE 商事マテック(株)
JFE 商事資機材販売(株)
JFE 商事造船加工(株)
JFE コムサービス(株)*
(株)JKW*
北長金日米建材(株)*
大阪鋼圧(株)*
鐘光産業(株)*
北関東スチール(株)*
(株)MOBY*
阪和工材(株)*

海外グループ会社

広州川電鋼板製品有限公司
正廣達有限公司
東莞川電鋼板製品有限公司
浙江川電鋼板加工有限公司
江蘇川電鋼板加工有限公司
JFE Shoji Steel Philippines, Inc.
Central Metals (Thailand) Ltd.
Steel Alliance Service Center Co., Ltd.
New Bangpoo Manufacturing Co.,Ltd.
JFE Shoji Steel Vietnam Co.,Ltd.
JFE Shoji Steel Hai Phong Co.,Ltd.
JFE Shoji Steel Malaysia Sdn. Bhd.
Pt. JFE Shoji Steel Indonesia
JFE Shoji Steel India Private Limited
Vest Inc.
JFE Shoji Steel America Inc.
Kelly Pipe Co., LLC
JFE Shoji Steel De Mexico, S.A. De C.V.
JS Biomass Resources Sdn. Bhd.
Kawarin Enterprise Pte. Ltd.*
Kuroda Precision Industries Malaysia Sdn, Bhd.
上海華倉金属製品有限公司*
r.bourgeois JFE Shoji Magnetic Lamination, Inc.*
A4C Sankin Tuberia de Precision, S.A.P.I de C.V.*

造船事業

ジャパン マリンユナイテッド 株式会社

[本社]東京都港区
[売上高]3,505億円 [従業員数]6,172名

国内グループ会社

(株)JMUアムテック
(株)IMC
JMUディフェンスシステムズ (株)

* 持分法適用会社
※売上高:2015年度実績
※従業員数:2016年3月31日現在

JFE ホールディングス 取締役、監査役および執行役員



取締役 吉田 政雄

代表取締役 岡田 伸一

代表取締役社長 林田 英治

代表取締役 柿木 厚司

取締役 前田 正史

執行役員

社長	林田 英治	CEO
副社長	岡田 伸一	CFO 総務部、IR部、財務部の統括 企画部の担当
専務	寺畑 雅史	総務部の担当
常務	大木 哲夫	IR部、財務部の担当

監査役

監査役（常勤）	黒川　康
監査役（常勤）	津村 昭太郎
監査役	伊丹 敬之
監査役	大八木 成男

※ 前田正史および吉田政雄の両氏は社外取締役
※ 伊丹敬之および大八木成男の両氏は社外監査役

VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022784

JFE ホールディングス 株式会社
〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
http://www.jfe-holdings.co.jp/

Copyright © 2016 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

http://www.jfe-holdings.co.jp/

